

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	聴覚障害児支援 かいじゅうの森 (保育所等訪問支援)			
○保護者評価実施期間	R7年 2月 7日 ~			R7年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26人	(回答者数)	17人
○従業者評価実施期間	R7年 3月 10日 ~			R7年 3月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2人	(回答者数)	2人
○訪問先施設評価実施期間	R7年 2月 7日 ~			R7年 3月 19日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	26人	(回答数)	14人
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 24日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	聴覚障がい児の教育や療育に関して高度な専門性と熱意を有しているスタッフがいる。	聴覚障がい児の教育や療育に関する最新の情報を常に収集している。収集した情報を基に対象の聴覚障がい児や保護者、訪問先への支援を行っている。保護者や訪問先のニーズにできるだけ速やかに対応するように心がけている。	地域で適切な支援を受けないで過ごしている聴覚障がい児への本事業の拡充。
2	事業所がある久留米市内や筑後地区に限らず、県内であれば遠方であっても対応している。一部県外にも対応している。	現在の利用者とその保護者からの本事業に対する評価が高まれば、必然的に口コミで本事業の噂が広まって依頼者が増えていく。そうなれば結果的に地域で孤立している聴覚障がい児を救うことが出来ることになる。	今後とも、慣れや慢心を排除して、ひとりひとりの聴覚障がい児とその保護者に、誠心誠意対応するように心がける必要がある。
3	遠方であっても訪問支援員が訪問するための交通費（高速道路代も含む）を保護者から徴収しないことで、保護者の経済的負担を軽減している。	訪問支援員が学校等を訪問するための交通費（高速代を含む）については、事業所負担としている。	訪問支援員が学校等を訪問するための交通費事業所負担を今後も継続する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者の増加により、訪問支援員の数が不足する状況が生じつ つある。	聴覚障がい児の教育や療育について、専門性を有する人材が極めて少ない。 訪問スタッフの数を増やせるほどの経済的余裕が本事業所にはない。	聴覚障がい児の教育や療育について、専門性を有する人材を引き続き募集するとともに、事業所内で専門性のある人材の育成を行っていく。
2	訪問先が遠方である場合が多く、1件の訪問に時間を費やしてしまふ。	事業所がある久留米市内や筑後地区内に対象を限定していないので、必然的に1件の訪問に時間を費やしてしまうことになる。	訪問スタッフの数を確保することが出来れば、対応しやすくなる。
3			